

古言類韻全

ホ 2
1279

い十八号



利
1277
E



古言類錄

一之卷

引用書目

凡例

八十一章

檢例

一言之言

語源

言語本末八種

二之卷

阿行

三之卷

加行





四之卷
 五之卷
 六之卷
 七之卷
 八之卷
 九之卷
 十之卷



和行
 十一之卷
 十二之卷
 義釋

引用書目

古事記

日本書紀

續日本紀

日本後紀

續日本後紀

文德實錄

三代實錄

古語拾遺

天孫本紀

類聚國史

神皇正統記

萬葉集

菅原萬葉

日本紀卷末歌

催馬樂

神樂歌

日本紀私記

同釋記

日本紀纂系疏

熱田縁起

佛足石歌

高橋氏父

法王帝說

倭姬命世記

出雲風土記

常陸風土記

豐後風土記

丹波風土記

相模風土記

播磨風土記

伊豆風土記

令義解

延喜式

貞觀式

類聚三代格

政事要畧

神宮儀式帳

神宮雜例集

新撰姓氏錄
江家次第
古事記
禁秘御抄
西宮記
北山抄
春記
康富記
園大曆
安徳天皇御五十日記
大安寺資財帳
東大寺古欠書
名目抄

年中行事秘抄
大鏡
增鏡
東鏡
台記
日本靈異記
和名抄
新撰字鏡
類聚名義抄
以呂波字類抄
和玉篇
節用集
竹取物語

神選方
大同類聚方

空穗物語
伊勢物語
源氏物語
落窪物語
狭衣物語
瀨拓中納言物語
榮花物語
大和物語
住吉物語
四季物語
宇治拾遺
長門本平家物語
源平盛衰紀

太平記
諸國奇遊記
新猿樂記
土佐日記
蜻蛉日記
紫式部日記
和泉式部日記
中務內侍日記
亭子院歌合日記
枕冊子
古今著聞集
今昔物語
十訓抄

袖中抄
徒然草
沙石抄
袋草子
童蒙抄
埃囊抄
無名抄
古今集
後拱集
拾遺集
金葉集
詞花集
千載集

後拾遺集
新古今集
玉葉集
古今六帖
夫木集
堀河太郎百首
同次郎百首
拾玉集
名所和歌集
源順家集
新恒集
和泉式部集
中務家集

兼盛集

俊成卿家集

山家集

惠慶集

曾丹集

為忠集

為尹子集

住吉歌合

尺素往來

大秦牛祭文

說文

韻會

玉篇

字彙

古點文選

本朝文粹

遊仙窟

本草綱目

五雜俎

白氏文集

尚書

毛詩

左傳

史記

莊子

古言類韻

凡例

此書皇典の類語を容易に索むに料とし又其語意をし類語を採り音義
を係けて考ふべき故に抑皇典の字たるや必先古語を知らんをある
可らう此古語を知らむに也類語を索め語原を明らにせらるる及ん然し
ハ此書古言を集へ其古言を五十音義以て釈けりとのなり斯て其類語
ハ同行同章の中より自然相集るべく組立たるも此より其組立の法ハ次
を挙げたる八十一章を採り其例を索むべき便を換例を採りて知るべ
し

近時癸亥の辞書として其辭教をすく集へるも二三部ありと雖も其
語の活用と其語意の解等を附したるもの物より歌文の用材を充む
る可るなりと云ふも其語原を明らにせる為に適用しうたし又少

し古きものより和訓集雅言集覽ホあべとソクヤモ和訓集ニ字音の
語をト挙げ偶ハ俗語を雜へるとして固ヨク辞典の体裁も具へたるも
のと見做うたし但語ハ数ヲ挙げたき共例ハ青ト云語と云けて其次
マ青馬青色青貝青海原青人草青葉山云云等直接して挙げたきハ自然
數語となせしト其連語を放り一言の本語となして見る時ハ猶漏せ
るもの多し又雅言集覽ハ草子物語ホの語ハ尽したきヤト古語ハ漏
りたるもの少シ又色といふ言ハ顔メ色髪の色衣の色と分ち或
ハ連語していろとるソクヤモ香サト並へたるハ和訓集ニ比して
挙げたる語ハ多キト似て其原語を大成したるもの多キアリ也
又近日癸亥の或辞典ハ辞數六千餘言を挙げテ頗大成爲たるもの
似たり也雖ト此ト猶阿部ヲ云リ、^相あひと云辭を挙げテ其並マあひ
たもふあひつぢふあひたふあひつぢふ云々等以て直接志
たる語を數ヲ並挙げた也然してあひの下ヲ接したる不もふ云々

ふきそふがをよして其下ヨク再トあひの語を連らねておもひあへる
のたりひあふきそひあふが重複して強ひて語を多く志たり如此上
ある語を下置きたる語を止る廻して挙げ時ハ何言リ挙るとも限
ることさし相思ふあひ固ヨク阿部收むべくおもふ放ちて放
の部ヨ收むべきとも也又舟車との馬との類をト別ヲ挙げたり
字書ならむハ兼騎の字とあせやも皇語マハ舟車とのも馬
のもト語意活用ヲ異するも此ヤなきものヤ如此類枚挙ヲ遺りた
ことを以て辭數六千言の才ト云て是今此類韻ト他ハ辭書ト其体裁も
其用法も大ニ異なる所以なり
此書其語をのこ挙げて其説を挙げたるもの多シ此他の著書も
多シト云へるを以て其書ハ云へりとのこ挙げたりト類語或同字
鳥楨の板屋假字本義考等の類也
助辭ハ語の中の一様ト云へるハ八十二章の組五ノ関セさせハ都ト此書

子奉けを助辞の已が説ハ助辞音義考よりして

此書子奉けたる古言の中古典に皆假字をめた用めて真字の例なきハ
猶假字にて奉けて

草木鳥獸に満したるも其也然して和名抄に載せしむる限正ハ
大方奉けたる

此書所載三十四百二十八言皆原語限正也

二音を組して二十二十五言を成れ其組方ハ平田氏の古史本辞經の組
方と採り俱何せり組して五十音を二音日組む時ハ猶二十二十五
言に成て其教異なること無しと雖も彼書の組方殊便よけりハ
従へるなり

八十一章

此書に古言を奉けり法を段章に次第に組む五十音四百五段に
して八十一章と成る然して一段五言一章二十五言を扱して八十
一章二十五言と作る例ハ

阿行を經とし加行を緯として

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| あひ | あき | あく | あけ | あこ | 一段 |
| いひ | いき | いく | いけ | いこ | 二段 |
| うか | うき | うく | うけ | うこ | 三段 |
| えか | えき | えく | えけ | えこ | 四段 |
| おか | おき | おく | おけ | おこ | 五段 |

此を阿行の一章とん
次に佐行を緯として

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| あひ | あき | あく | あけ | あこ | 一段 |
|----|----|----|----|----|----|

案え...の誤か

次子波行を講せしめて

此阿行の四章を以て

此阿行の五章を以て

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| たは | えは | うは | いは | わは | たか | えか | うか | いか | わか |
| たひ | えひ | うひ | いひ | わひ | たに | えに | うに | いに | わに |
| たふ | えふ | うふ | いふ | わふ | たぬ | えぬ | うぬ | いぬ | わぬ |
| たへ | えへ | うへ | いへ | わへ | たぬ | えぬ | うぬ | いぬ | わぬ |
| たほ | えほ | うほ | いほ | わほ | たの | えの | うの | いの | わの |
| 五段 | 四段 | 三段 | 二段 | 一段 | 五段 | 四段 | 三段 | 二段 | 一段 |

次子太行を緯として

此阿行の二章を以て

次子那行を緯として

此阿行の三章を以て

| | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| たは | えは | うは | いは | わは | たさ | えさ | うさ | いさ |
| たち | えち | うち | いち | わち | た志 | え志 | う志 | い志 |
| たつ | えつ | うつ | いつ | わつ | たに | えに | うに | いに |
| たて | えて | うて | いて | わて | たせ | えせ | うせ | いせ |
| たぞ | えぞ | うぞ | いぞ | わぞ | たそ | えそ | うそ | いそ |
| 五段 | 四段 | 三段 | 二段 | 一段 | 五段 | 四段 | 三段 | 二段 |

次に麻行を講として

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| あま | あこ | あむ | あめ | あも |
| いま | いこ | いむ | いめ | いも |
| うま | うこ | うむ | うめ | うも |
| えま | えこ | えむ | えめ | えも |
| たま | たこ | たむ | ため | たも |

此を阿行の六章と凡

次に夜行を講として

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| あや | あい | あゆ | あゆ | あゆ |
| いよ | いこ | いむ | いめ | いも |
| うよ | うこ | うむ | うめ | うも |
| えよ | えこ | えむ | えめ | えも |
| たよ | たこ | たむ | ため | たも |

此を阿行の七章と凡

次に良行を講として

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| あら | あこ | あむ | あめ | あも |
| いら | いこ | いむ | いめ | いも |
| うら | うこ | うむ | うめ | うも |
| えら | えこ | えむ | えめ | えも |
| たら | たこ | たむ | ため | たも |

此を阿行の八章と凡

次に和行を講として

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| あわ | あこ | あむ | あめ | あも |
| いわ | いこ | いむ | いめ | いも |
| うわ | うこ | うむ | うめ | うも |
| えわ | えこ | えむ | えめ | えも |

木わ 木ぬ 木う 木ぬ 木を 五段

此を阿行の九章也凡

此九章まで阿行の終りて次ニ加行終りと成て加行終りて波麻夜良和の九行終りてなること凡て上の如し然して和行の終りてなるまでニ至りて九行ハ十一章とすなり即ち阿行の終りてなることよく良

殊例

此書同音の頭ニ属す語を索メむ。凡行の同位ニ亦一章あり九章まで横ニ推し流し見り時々其語悉く集むる例ハ阿の音の頭ニ属す語を索むる阿行亦一章一段ニ赫和飽朱亦二章一段ニ麻芦明日行亦三章一段ニ仇味當貴跡亦四章一段ニ痛宜妙亦五章一段ニ澄間合觀亦六章一段ニ甘細編天亦七章一段ニ綾肖亦八章一段ニ荒蟻生彼亦九章一段ニ沫藍青と自然集ふ

又同音の下ニ属す語を索む。毎行の同音を堅ニ推し下せば其語類悉く集る例ハ加ノ音の語尾ニ属す語を索むる阿行亦一章に赤鹿撞加行亦一章ニ利陸佐行亦一章ニ性然清衣行亦一章ニ高近塚谷奈行亦一章ニ中苦額波行亦一章ニ基麻行亦一章ニ禍懸夜行亦一章ニ床加行亦一章に稚岡と自然集ふもの也凡

一音言

一音言ハ十一章ノ組五ノ関片ヤキハ別に其ノ以舉人

加行

加 香 才 三 等

支 木 才 一、

寸 才 二、

久 采

女 毛 才 一、

異 才 二、

子 才 三、

小 才 一、

蚊 声

城 才 二、

背 才 三、

良 才 一、

怪 才 二、

粉 才 三、

露 才 一、

鹿 声

忽 才 一、

黄 才 一、

气 才 一、

先 才 一、

隆 才 一、

董 才 一、

鹿 才 一、

酒 才 一、

筒 才 一、

佐行

佐 細 才 二、

小 才 二、

狭 才 三、

麻

| | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 女 | 免 | 年 | 美 | 麻 | 保 | 闲 | 不 |
| 裳 <small>才一</small> | 目 <small>才一</small> | 六 <small>才一</small> | 見 <small>才一</small> | 真 <small>才一</small> | 考 <small>才一</small> | 重 <small>才一</small> | 經 <small>才一</small> |
| 夜 | 身 | 身 | 箕 | 三 | 言 | 帆 | 經 |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 |
| 蒙 | 身 | 身 | 三 | 言 | 帆 | 經 | 經 |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 |
| 蒙 | 蒙 | 蒙 | 脚 | 間 | 頓 | 窟 | 戶 |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 |
| | 蒙 | 蒙 | 定 | | 次 | | 民 |
| | 才一 | 才一 | 才一 | | 才一 | | 才一 |

夜行

| | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 夜 | 以 | 由 | 延 | 与 |
| 八 <small>才一</small> | 射 <small>才一</small> | 湯 <small>才一</small> | 江 <small>才一</small> | 世 <small>才一</small> |
| 矢 | 歸 | 齋 | 桐 | 夜 |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 |
| 舍 | 沃 | 兄 | 代 | 四 |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | 才一 |
| 輻 | 膽 | | | |
| 才一 | 才一 | | | |

和行

| | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 和 | 章 | 宇 | 惠 | 乎 |
| 翰 <small>才一</small> | 堪 <small>才一</small> | 得 <small>才一</small> | 爾 <small>才一</small> | 小 <small>才一</small> |
| 居 | 魁 | 画 | 精 | |
| 才一 | 才一 | 才一 | 才一 | |
| 猪 | | | 尾 | |
| 才一 | | | 才一 | |
| 蘭 | | | 学 | |
| 才一 | | | 才一 | |

解末

以上百四十二言

一音として言ふべきを以て一音義を具へたるを知るべし。政米等の数字を配合して一音に呼ぶ数字を連接して一義を成せざる大に異なり

諸源

此書に批りて方言の意を辨へむと云ふもの、先語源を案ぬれば、あるべし。故に同答を設けて各言原義あり由を茲に示すと云ふべし。

問 言語の各々其原義を具備せしむや
 答 然り。十言萬語其原義を備へたるをかし

問 其原義の何々原因とるべきや
 答 其語の音義に因り

問 其音義文何に因じて生ぜむや
 答 声音所発の貌を成りて

問 声音無形物なるを其貌ありや如何
 答 例、阿音を呼ぶて其口を全し開きて声を発す其開けたる貌則阿音の義を成りて音を呼ぶて其口を窄めて声を発す

問

答

其審りたる類別於音の義と成るゝ如し
言語の原義其音義と成るゝとは如何なる所以に因せ
ばや

言語音声あり音に類あり事物に休用あり然して其形体を見其
作用を解して心で感音を榮るゝ其事物を其音の類に象して呼
ぶ不言語の原義や不れるゝのるゝ假令は音唾者事物の休用を
手に擬して人は告るゝ如く言語を成るゝ者ハ音声に擬して名称
として呼ぶゝのみなり

問

其終了解せらるゝとの如何
助辞の一ニを挙げて云い、先づ音を合せてゝ唇を放際を榮るゝ
貞ありハ物の分るゝ義ありハ音を以て称にハ語を葉利ハ其
に因て葉利ハ放春晴張敬等然あり助辞ハと之ハ同じく假令ハ
此ハ可と云時ハ彼と此とを分ちて彼ハ不可なる意を念むるモ

問

答

音唇を合せ審むゝ際ハ榮るゝ音ふゝハ物の集てたる義あり
音を以て称にハ語を以て葉利ハ親屬相蒙りて寄せる物
西天而及西折戸餘望總系筋共居本初標盛森如等然あり助辞ハ
モとえに同じく假令ハ此ハ可と云時ハとの意にて彼も可意と
ふて彼や此やを相合せゝに云てハ助辞とを及對する

問

諸原を音義に因て解るゝ説ハ古來ありや
文化の項尾張人欽本朝ハ雅語音聲所刻本一に小ハ共説あり然
りやと共説ハ音義説ハ榮微ふゝまたにて全音の義を尽すに至
べし次に私化ハ項伊勢人富樫廣蔭此説ハ主張にせし其説ハ
斯亦粗として完全ならん然しやハオニ祖説や云べし
其他大家の聞えりハ皇學者ハ同説ありや
荒木田守訓林國雄平田篤胤大國蔭ハ鈴木重胤等之ハ相似たり

問答

説めども皆五十音一行を一義とし十行十義の説きて各音の
義を云はれ其一行の上の義を云はるる假令は加行の語を集
たる上より加行に云云の義佐行に云云の義を云はるるに
て其声音所發の只より究めたるにあらずして猶言語の本原
に溯るたるにあらざれば一行一義にて萬言悉く解得りも色
のなりむは簡して最可なり也云べし然り共と五十音阿行
の經也音段の緯を除去して其他の三十六音は都て阿經也音緯
也の二音あり今生志らるるものより同行の音にては其分韻を序
きて一音毎に義の轉るるものなりは一行を一義に概して萬
言は通用凡もこやと得べし

事物の形容を猶其音に象せて云例ありや
ハ音ハ物ハ放りたる義ありハ物ハ散り乱るハ形容をハラハ々
や象リク音ハ引寄り義ありハ物ハ強く引く形容を常にグツと

問答

宗應十神ヲス可シ

引等々音ハ物を衝き出れ義ありハ物の連るる形容を常に入
や進む等云ふ此ハ音ハ引寄り義ありハ音ハ衝き出れ義あり

古言に其例ありや
都て云云と云云ニカシ類下より音ニ音を削りて形容を云
しハ皆此例なるて古事記神代改許袁呂許袁呂延^疑同允恭天
皇改佐々^イ察^ニ尔^ウ宇^ツ都^ヤ夜^レ阿^レ良^レ礼^レ能^レ志^レ陀^レ志^レ尔^レ霰^レの^葉同應天皇
改佐々^イ那^ニ美^ニ邊^ニ袁^ニ須^ニ久^ニ須^ニ久^ニ登^ニ行^ニの^進此他例多し中昔の物も
竹取物語にこめちやしるよ不やみすりと大さくたり云
去源氏物語相壺巻にみむのうらつもふたのうらまで同横笛巻に
やふくふえてつがやまのけあも云云等の如し皆其形容を
音の類に象したるものなり此形容の音義を能く辨る時を言語
ハ其音の類を象したるものなり其音の疑を遣はるやなきしめ
せざる是を語源確證の最むとの也るなり

問

或人の説言語二音三音重疊して始て其義を成るものなり
と云ふ如何

答

否也若し二音以上重疊して始て其義を成るものとしせば一音まで
語を成るる力を如何に一音まで名詞やなほ如何に本
城酒寸葱又毛復寄氣異怪等如し又動詞でも着似煮干飯見
射居各詞は續し格や各詞の本體は一音なり等の時
て詞となすもの凡百四十三言何れ此一音は其義を具して語
源やなり明做あり

問

然りは其本城酒寸葱等の言義如何
キ音の地を言ふ清キ自又物の際を分自あり此等の義は猶榮
く音因大全本酒葱生霧相萌等一音の義又本城分際除切
解云云
出岸等ハ亦ニ等の義あり

問

言語の原義其語の音義を因るものとし云い干言万語悉く其

答

音義を覓て語の本に知ることを得るもの
言語に本末二義あり本義の隨する語を音義と批りて其語の原
義を覓むる末義の本義より一轉したるものならば直に音義
より批り難し故に先其語の一轉したる所を究而して其出所の
本語を得る猶本語の音義を批らむと云ふ論を俟さるなり

問 答 問 答

其本末二種類アリヤ
本義ヨニ種末義ニ六種あり
本義の二種とは何なる云や

其一々萬物の形状を音色の自に象りて云
萬事の作用を音声の自に象りて云
と始し此は屬キ
此を名詞又其ニ云
体言と稱す
用言や動詞又助辭と云ふ

問 答

末義の六種とは何なる云や
假言通言約言略言延言合言是なり本邦の語類此本末二種の他

問 答

言語の本末を知らず分るは豫其目的とするものあり也
皇國語の例なるや名詞の必一音あり二音あり三音あり
止る似良行の音の副るもの多し此限るはあらはしハ
ハ名詞あり二音の語あり也七良行の音の加ふるもの多し然し
て名詞あり三音或ハ四音等の語動詞あり四音或ハ五音等の語
ハ必本語の隨ハたり花一轉して末義よりなるものあり或ハ
本二物の名を合せて一物の名を稱し或ハ本動詞あり名詞と
あして稱取ハ延びて語等あり本語ありありするものあり然しハ
名詞動詞とも先詞の音数を以て其語の本末を定むるを目的
とす

問 答

名詞ハ二音より止り動詞ハ三音より止る也其例ハ如何
其例を一二云り、名詞にて天地日月海河谷沢ハ一音又二音不
り泉ハ三音びせせ也出水の合言也雲雨雪霜ハ二音あり雨散ハ三
音不はせせ也良行の音加る又筆墨紙ハ二音あり硯ハ三音不せせ也
し墨硯の合言不し本筆竹管ハ二音あり刺ハ三音不はせせ也良行
の音加れ也君民神人ハ二音あり臣ハ三音なれとも家之子の合
言あり又動詞にて開閉行進歸ハ二音或ハ三音あり退ハ四音不
れ也也後離の合言あり咲散答ハ二音或ハ三音あり移ハ四音不
れ也也ハツルの延言あり餘進して知るべし

問

諸系を其音義に披りて云ハさるもの多し何に披りて言語の解統
をばせ也や

答

普通の語統ハ古人の用例を類聚して之を照し或ハ充たる字に
披り或ハ同音を通せ成ハ延約を用み或ハ相似たる語に誤し等
をばせり

問

然ると猶可なりや

答

不可なり何カと成るハ古人の用例を照らして考ふるハ他の語釈は
勝りて不可不也と成るハ必其例を証せしハ何也と云ふハ然
れども先其語の本義を究め得て而して其例証を古書に採らば
人ハ在る可なり單に類例をのし集めて去るハ於語源を解するも
の也云々可なり又充たる字は批るべきは大誤解なり凡そ至
るも此あり例ハ其ハ字ハムタもトモも充れどもムタト
トモ也ハ其別なきこと能ハ同の字ハメゲルもトモトホルもト
充れどもメゲルトトモトホルとハ其差なり母の字ハフスもト
ヤスもト充れどもフスもコヤスとハ異ふも如し或ハ通略延
約を以て悉く諸意を解むたるも亦不可なり通略延約の語々
僅なきはならん也虽も百言中七八言は過くつらんに然して其
通言である音もも思ふべき音もも定格ありて猥に通略にすべき
ものならん又其相似たも諸を以て同意の語と成るも如きを殊

案猶猪誤

問

答

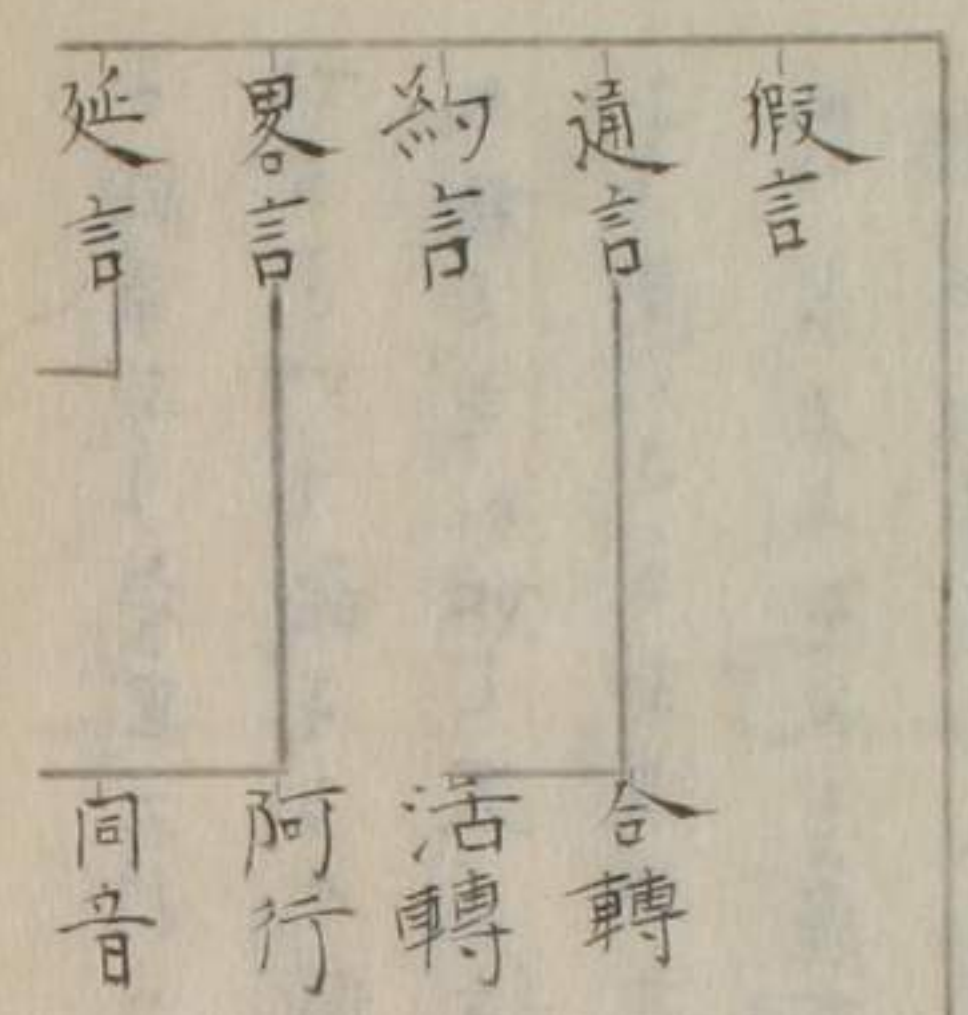
子解事あり音異ふれハ從て其義異ふらざるを得ざるを必其似
たるを以て解するを假令ハ猶ハ豕ハ虎ハ猫子似たるもの也其
大概を云か如し直ニ猪也豕也相並ハ虎也猫也相校ハむら固
より違ひざるを得ざる如し天ハ阿天也地ハ都知也二音も其言
義具れるを天^ア盧^シ萌^モ地^チと續^キ上^ナ不^レ云^フ詠^ハ本^ノ言^ヲ在^テ憶^シ詠^ス
るものあり
然らハ邦語の限り悉く其語の音義を以て解せしむるも窮るも
ものなり
凡百言の中九十五大言に至るハ其解を窮るものなり其解難
き三四言の如きハ考明せしむるも其言義の他言
の例を異ふるものなり故ニ解難きは姑く闕除して後日候待
つ時ハ偶考得ることあり或ハ古書中其証となるを見当るものも
あり其解難きを略し強ク解むべきも時ハ所謂音附會の類

と言ふに至るを免れ然れども百言より九十餘言音義を以
 て解するを得る上ハ語源其語の音義を以て之を思ひ定
 むべし

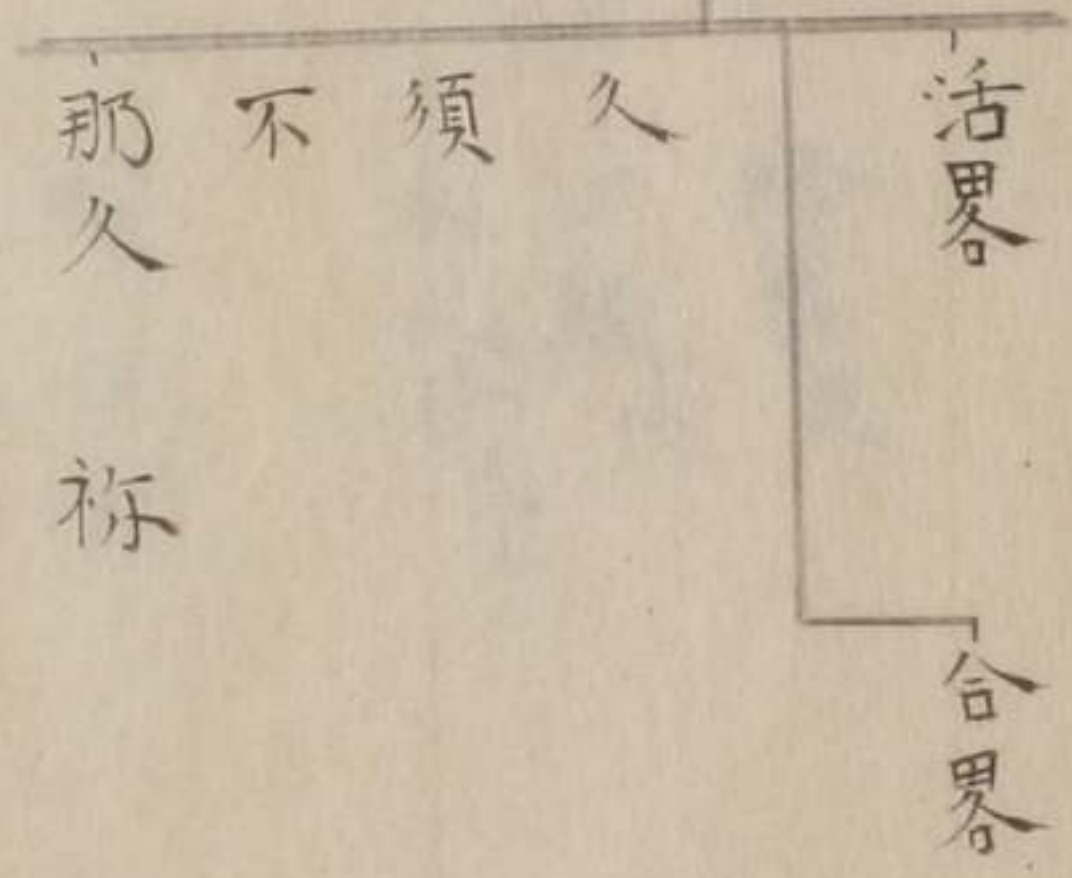
水

言語水八種
 萬物の体を音聲の自り象
 萬事の用を音聲の類り象

末



合言



假言

通言

濱栗鈴

蛙手楓

飯粒疝

水古

荷荷前

合轉

酒

風

金

上

天

蜂巢蓮

口繩蛇

木水母水耳

黄黄金

水介

サカヅキ

カサカミ

カナレキ

ウハベ

アツカミ

サカガメ

カサシモ

ウハニ

アツヒ

延言

語法本義論委云一

合言

| | | | | | | | |
|---------------------|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------|
| 前 <small>マヘ</small> | 古 <small>コ</small> | 長 <small>ナガ</small> | 因 <small>ユヰ</small> | 赴 <small>ツク</small> | 叛 <small>ムコ</small> | 但 <small>タリ</small> | 墓 <small>オシキ</small> |
| 同方 | 佳方 | 常方 | 血並 | 面向 | 背向 | 座居 | 真城 |

内舍人
折敷

鳥網
弓筈

此水本の委しき中ハ
 後ノチ 養ウヱ 羽ウエ 舎ノ
 語堂問答卷之三云一

淡
水
湖
水
文
學
會
會
刊
第
一
卷
第
一
期
一
九
二
一
年
一
月
一
日

